

2007年を迎えて～いじめと建前教育～

神奈川県異業種グループ連絡会議議長・南出健一

時間の過ぎ行く早さに戸惑いながらの迎年でした。本年もよろしくお願ひ申し上げます。在り来りな言い方になりますが、加齢とともに「しばし時間の動きも止まってくれたら」との思ひは私一人だけでしょうか。それでも世の中は、行きつ戻りつしながら絶え間なく多くの問題を醸し出しています。

その内の一つ。昨年、「いじめ」が大きな社会問題になりました。いじめの事実を知りながら大人たちは「見て見ぬ振り」をしてきたのです。尊い命を犠牲にしてはじめて「お国」も重い腰を上げました。識者はこぞって「教育のあり方・制度」の是非を問いはじめました。中には「この国の拝金主義が子供たちにシワ寄せされた結果」という見方もしています。有史以来の「道徳律」として「隣人を愛し慈しむ」とは世界中の人々が希求し続けたものでありながら、現実を見れば「強きを助け、弱きを挫く」社会になっています。

それにしても、なぜ「制度がだめだから」という方向に動いてしまったのでしょうか。よしんば制度によって「子供」の教育が全うされるというなら、とうの昔に「制度」さえ「整合性」が取れば「いじめ」は防げたともいいたいのでしょうか。ここで「建前教育」の歴史とその悲劇をご紹介します。

江戸時代、会津藩は徳川幕府に対して、何処の藩よりも「忠誠」に徹し「親に孝、兄弟に敬愛」そして「何事にも公平」という儒学教育を徹底したのはつとに有名です。それゆえ東北の山々に囲まれた会津盆地は、サムライ社会にとって清貧ながらも平穏な時代を送ることが出来るどころでした。ただし一度でも15ヶ条の家訓を破った場合、集団で制裁を加える「掟」もあったようです。僅かに残された私日記や史料の行間を読むと、その裏には子供大人を問わず、制裁の名を借りた相当な「いじめ」もあったのです。下級武士である足軽の中には、余りの「いじめ」に耐えかねて屠腹し果てた者もいたと語り伝えられています。「家訓」を「建前」に振りかざした上司による部下への痛振りは悲惨なものでした。日常茶飯事の「泣き寝入り」だったのかもしれませんが。

やがて、あちこちから「幕藩体制のほころび」が出始めた幕末、財政の行き詰まった会津藩は京都警備の任に付かされてしまいます。有能な幹部はいても時の藩主松平容保は「建前家訓」から逃れることは出来なかったようです。「教育のもたらした悲劇」はここから始まったのです。譜代大名のなかで「貧乏くじ」を引かされた会津藩は、多摩の百姓出身である近藤勇や土方歳三率いる「新撰組」を「攘夷激派」と対峙させます。京の街はテロの応酬に明け暮れたのです。それでも、時の進みは止めることはできませんでした。京都郊外の鳥羽伏見で近代兵器と「錦の御旗」を振りかざす薩長土肥の西南雄藩と激突するも遭えなく敗退します。ご存じ「戊辰戦争」の火蓋は切って落とされました。

今でも杉並木の残る日光街道に面した今市周辺から、会津西街道を田島に向けて旅をすると、街道筋の所々に名もなき「路傍の石」と化した「無名戦死者」の墓標を目にします。すべて東軍(会津、旧幕軍)の人々のものです。西軍(薩長土肥を中心とした官軍)は、賊軍の汚名を着せた東軍兵士たちの亡骸を葬ることを許しませんでした。半年間も放置されたため腐敗するにまかせ、身元不明のままにされたのです。見るに見かねた寺の住職や近在の村人たちが、西軍の目を逃れるようにして彼らを埋葬したといわれています。

会津城下では凄惨な戦いが繰り返されました。西軍の圧倒的な戦力の前には如何ともし難く、街は灰塵と化し、終に全面降伏を迎えることとなります。この攻防戦で会津藩だけで3千～3千5百人が戦死したと記録されています。駆り出された無名の軍夫まで含めれば4千人近い犠牲者があったものと思われます。

会津郊外の、とある村の陶工であり郷土だった16歳の少年は父親とともに戦場に赴きました。そして父親の無残な最期を見届けた彼は後年、私記に慙愧の念を書き留めながら「会津に悲劇をもたらしたのは無能な門閥を支えた儒学教育にあった」と激しく非難しています。あらゆるものを犠牲にして国家＝藩に忠勤を尽くすことを是とした教育は、為政者にとってこの上なく重宝なものでした。しかし、硬直化した精神教育ほど怖いものはありません。「個に犠牲」を強い、目の前に迫る時代の変化さえ「見て見ぬ振り」をしてしまったのです。それから70年後、ふたたび「悲劇」は繰り返えされたのです。

さて、この国では建前と本音の使い分けが「大人の方便」になっています。なぜか本音を教えるべき教育が、建前だけになっているように思えてなりません。建前が「いじめ」の「芽」を生み醸成してしまうように思えてならないのです。ここに「いじめの根」があるとすれば私たち大人は、自分の「生き方、考え方」を直ちに捨て「根」を断ち切ることを決意しなければならいでしょう。歴史は証明しています。「建前の教育」ゆえに会津藩ばかりか滅び去ってしまった国々は枚挙の暇がないほどあったのです。

2007年、年頭挨拶にふさわしくないことを承知で書き記させていただきました。

産学官交流サロンのコーナー

第18回横須賀サロンの開催案内

日時:H19年01月18日(木)18:00~20:30
 場所:神奈川新聞社・横須賀支社 5F会議室
 テーマ:“あなたの町の発明家”
 スピーカ:マグロ縄工房 谷 美佐男氏
 株式会社電幸社・社長 一ツ谷 幸男氏
 会費:1,000円(ビールとおつまみ付き)
 連絡問合:八幡 045-633-5142, 鶴野 046-836-6785

第17回川崎サロン開催案内

日時:H19年01月16日(火)18:00~20:00
 場所:神奈川サイエンスパーク(KSP)西棟7階 703会議室
 テーマ:大学高等教育(大学院)の実態
 ~横浜国立大学VBLの試み~
 スピーカ:株式会社ケーエスピー・取締役 志茂 武氏
 会費:1,000円(ビールとおつまみ付き)
 連絡問合:T045-633-5142 F045-633-5194 芝、渡部

第6回西湘サロンの開催案内

日時:H19年01月15日(月)18:00~20:00
 場所:あいおい損保小田原支社(瀬戸ビル)3F
 スピーカ:小田原おでん会会長・田代勇生氏
 会費:1,000円(ビールとおつまみ付き)
 連絡問合:T045-633-5142 F045-633-5194 芝、島津

おなじみ尾上町サロン

地道に続いていますよ！連絡は特にいりません。ブラッと出かけください！(会費はワンコインでは苦しく、1,000にします)
 日時:毎月第一・三金曜日(1月19日、2月2日、16日)
 場所:神奈川中小企業センター5F産業交流プラザ
 連絡問合:芝、八幡、島津龍、島津俊、鈴木

第19回横浜サロン開催案内

日時:H19年01月25日(木)18:00~ 場所:ヘリオス関内ビル2階
 テーマ:横浜市の景観条例とまちづくり(仮題) 国吉 直行氏(横浜市都市整備局エグゼクティブアーバンデザイナー)
 横浜市はこのほど制定した[景観条例]に基づいて「横浜市景観ビジョン」を発表した。そのビジョンでは「景観」は、「土地の持つ地形や歴史などの固有性に、暮らしや産業といった営みや住む人、活動する人の意識が働きかけて、目に見える形として表れたもの全てを示すこと」と定義。まちづくり3法とともに今後のまちづくり、コミュニティ起こしに大きな影響を持つ景観条例の内容とその活用などについてスピーチと討論をする。
 会費:1000円 連絡問合:T045-633-5142 F045-633-5194 芝、池谷、杉本、織方

新年に思う

「想定内(外)」について考える

C&S会長 村上嘉男

2005年の流行語大賞としてホリエモンによる主題の言葉が入賞しいろいろ使われているが、この言葉の元祖のホリエモン及び村上ファンドによるM&A業務のほころびがこのところ目立ってきたようで独特の論理も検察当局によりくずされつつあるようである。

想定内や常識などの範囲はそれぞれ各人の知識レベルにより異なることは理解できる、しかしこの人たちは入試の学力偏差値は高いらしいが、世の中のしきたりや常識といわれる分野でのレベルはそれほどでもなく、むしろ我々よりも欠けているのではないかと、ということが徐々に分かってきたようである。

想定内の言葉も分かりやすく言えば、考えている範囲であること、想定外ではないこととあるがさらにくわいて言うと「そんなことわかっていますよ」ということらしい。

通常物事を考えるとき、これをしたらこのようなことが起きるであろうその場合このように対処すればよいと考えつつ進めていくが、対処の方法が見つからない場合は別の方法を考えるものである、しかし起きる確率が非常に小さい場合はある程度無視をして進めることも有りうるがこの場合想定内とは言えないのではないかと。

最近お隣の将軍様の国が核を保有しているようであるが、わが国の社会・共産党の方々はわが国には絶対飛んでこないと信じているようで、もし想定外で飛んでくるような事態が発生したときの対応は全く考えていないのか、その場合普段信用していない米軍におすがりするつもりなのかその辺の考えを参議院選の前に是非聞いてみたいものである。

かながわ異グ連の会員グループやプロジェクトの状況

アルメニア人材育成プロジェクト終了

加藤BC (C&S事務局長)

当プロジェクトは昨年に続いて、(独)国際協力機構(JICA)から受託を受け、H18年11月~12月の3週間、かながわ異グ連が研修を担当し、無事終了いたしました。本年度の研修生は、アルメニアにおいてコンサルタントの仕事をする5名及び中小企業振興に係る行政機関に勤務するスタッフ1名の合計6名でした。

今回の研修は、実務を経験することを中心とし、まず工場診断及び商店街診断のポイントを解説し、続いて(株)セプト・ワン殿、(株)開明製作所殿、高井精機株殿の3社に資料のご提供や工場視察をお願いして、企業診断の実践状

況を研修しました。商店街診断研修では、歴史が長く、色々な問題を克服して発展を続ける横浜元町商店街を見学しました。

アルメニアでは、将来のビジネスとして観光事業が期待されており、研修の強い要望がありました。これに応じて観光事業に関する基本的な考え方、神奈川県での実践方法の解説、そして現地訪問の3日間スケジュールを設定しました。箱根芦ノ湖を中心に案内し、道の駅、小田原城、そして、寄木会館の見学を中心にロープウェイやケーブルカー、海賊船、大涌谷など観光事業のインフラのあり方やサービスの状況を直接研修していただきました。

このほかに、中小企業支援に関する施設や機関として、神奈川中小企業センターを始め、中小企業団体中央会、中小企業大学校、神奈川県産業技術センターを案内し、研修事業を中心にご説明いただくと共に、実態を見学していただきました。企業及び関係機関の皆様には、ご多忙の中たいへんご協力をいただき、誠にありがとうございました。(なおアルメニアにご興味のある方は、異グ連のC&Sグループのホームページをご参照ください)

第70回日韓ビジネス協議会開催案内

高橋BC

昨年度は取引案件が数件あったが、ウォン高のため成約に至ることが出来なかった。本年度は最低一件以上の取引成立を目標に遂行したいと考えている。日韓貿易は昨年の上半期では日本からの輸入255億ドル、日本への輸出130億ドルで、収支は慢性的な韓国の赤字が継続している。貿易バランスを少しでも是正のために韓国からの輸入案件の成約を実現したい！

日 時：1月25日(木) 15:30～17:15 定例会、17:30～新年会 (だんまや水産)

場 所：神奈川中小企業センタービル5階会議室 会 費：1,000円、新年会は別途2,000円程度。

- 日本企業紹介：株式会社サンゴ/再生ペットボトル短繊維コンクリート補強材など・・・取締役 石川常夫氏
 - NPO国際交流支援協議会、横浜留学センター、Y. R. C. 英会話学院などの紹介・・・理事長 加藤めぐみ氏
 - 韓国企業交流会の報告・・・(財)日韓産業技術協力財団・部長 北林均氏
 - メイン講演：「**日本企業の強み、韓国企業の弱み・解決法**」・・・ムゲン経営研究所 所長 田中義二氏
- 連絡申込：TEL045-311-0094 高橋迄MAIL：mtakahas@tb3.so-net.ne.jp

関内・野毛活性化プロジェクト

池谷、織方BC

「食の街野毛」をアピールする第1弾として、「焼き鳥の街」をスローガンにイベントを展開します。

日時：H19年2月17日(土) 夕方

場所：横浜にぎわい座

なお当日は北海道・帯広の屋台イベントの主催者(坂本和昭氏)も参加される予定。

1月9日に異グ連で実行委員会を開き具体化する。詳細は後日発表。関心のある方の実行委員会参加を歓迎します。

問合せ：T045-633-5142 芝、池谷、織方、杉本

シフト21

有村BC

本年も「シフト21」は経営変革を目指す企業と人の交流を図るグループとして、業種・業態を問わない幅広い交流を目的とします。

2月定例会(2月13日)のテーマは「**経営者のイメージ戦略 ～センスアップ・カラー・セミナー**」です。現代は経営者のイメージが企業のイメージになる時代。企業の顔として、自社製品やサービスだけでなく、自分自身を磨いてみませんか？ イメージコンサルタントの川上雅子氏にわかりやすく解説いただきます。

また今年には会員企業様の更なる発展を期待して、テクニカルショウよこはま2007に出展いたします。もちろん、異業種交流分野で出展しておりますので、どうぞお立ち寄りくださいませ。

シフト21ではゲストの皆様の参加を歓迎しております(初回参加は無料)。お問合せは有村までお願いいたします。
(hda00467@nifty.com)

まんてんプロジェクト最近の話題

千田BC

- まんてん全体会議を中小企業センターにて11月15日に開催した。参加企業3社からの報告があり、特別講演として「IHIにおける航空・宇宙部品製造の取組み」と題して石川島播磨重工業(株)航空宇宙事業本部生産センター 藤懸 清氏が、難切削材の加工など最先端の技術について講演した。参加企業も多く盛会であった。
- 早稲田大学理工学術院総合研究所の産学連携航空宇宙プロジェクト「NIKE」の初会合が11月28日に開催された。年明けにも具体的なプロジェクトを決定することとなった。
- 11月29日-12月1日にかけて、東京ビッグサイトにて開催された中小企業基盤整備機構が主催する「中小企業総合展2006 in TOKYO」に出展した。参加企業6社からも技術の共同出展があった。
- 2007年2月2日(テクニカルショウ横浜2007の最終日)に「**異業種交流・新連携フォーラム関東ブロック大会 in 神奈川-航空宇宙産業を支える地域連携を進めるために-**」というシンポジウムをまんてんプロジェクトと関係団体が主催して開催する。(関連記事は4ページ)
- 水上飛行機開発事業協同組合が進めているULP用新型フロートは、日本大学および(社)強化プラスチック協会との連携により試作が終了した。2007年3月までに試験飛行を行い、販売開始をする予定。

新しいプロジェクトの提案**中小企業振興条例づくりを今年の目標に**

芝理事

いま、全国的に中小企業振興条例が注目され、条例を制定している自治体が70を超えた。残念ながら神奈川県は零である。そこで異グ連が各団体に呼びかけて「**条例制定運動**」を提案したらと考えている。中小企業振興の先進地域である東京都墨田区・大田区や大阪府の八尾市などにおいて、「条例」が区・市の振興策立案の規範となっており、職員の意識の変化やトップの姿勢にも反映されている。府県では群馬・埼玉・京都・三重などが制定しており、福島・千葉が検討中だ。条例の中には、工場誘致や金融支援などだけを目的としたものもあるが、近年は総合的支援施策を盛り込んだものが増えつつある。県内中小企業への支援を行政や地域政策の柱として確立するのが狙いである。

企業誘致を図る「インベスト神奈川」は、中小企業の申請が件数で55%だが、助成見込み金額では600億円の1割に満たない。大企業はたしかに進出すると影響はあるが、かたや大規模なリストラや撤退に伴う影響は非常に大きく、中小企業の比ではない。一般に大手の研究機関が立地しても研究内容は非公開で、地域との連携は少ない。そこで働く研究者は全国的または世界的なレベルの集団である。神奈川県内の若者が全員博士になりうるわけではない。活性化している地域は様々な職種や職業の人達が存在し、バランスの上に成り立っている。

商業でも最近の横浜駅西口のヨドバシカメラ売り上げ成果が、周辺の商店街や百貨店への貢献がない、と指摘されている。やはり商業の基本は自らの店の魅力やサービスを強化することが必要で、周辺に立地する大型店をあてにしたり、商店街全体の活性化を図っても、自分の店の個性や魅力が無ければお客は来ない。「条例」制定の運動によって地域全体が中小企業振興のまちづくりの見本となるようにしたい。

関連イベントのおしらせコーナー

テクニカルショウヨコハマ2007で

中小企業経営なんでも無料相談コーナー

C&Sグループ 吉池

今年も異グ連とC&Sグループ共同で「無料相談コーナー」を設け、創業、資金繰り、販売促進、労務管理、技術開発、補助金獲得、特許取得、後継者など経営上の問題や悩みについてご相談をお受けします。ご来場の節は、お気軽に異グ連・C&S共同ブースにお立ち寄りください。

日時：1/31(水)～2/2(金) 10:00～17:00

場所：パシフィコ横浜展示ホール

ブース：h-4 神奈川異グ連・C&Sグループ

異業種交流・新連携フォーラム関東ブロック大会 in 神奈川

～航空宇宙産業を支える地域連携を進めるために～

日 程：平成19年2月2日(金) 13時～17時

会 場：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

主 催：(独)中小企業基盤整備機構関東支部、まんてんプロジェクト、全国異業種交流協議会関東ブロック連合会、他

講 演：「**宇宙開発と中小企業への期待**」

宇宙航空研究開発機構産学官連携部部長 石塚 淳氏

「**早稲田大学の新たな戦略**」

早稲田大学理工学術院総合研究所教授 長谷部信行氏

事例発表：神奈川県、新潟県、東京都、千葉県、長野県、埼玉県

終了後 17時10分から同ホテル内にて懇親会を開催します。

参加費 3000円。 連絡問合せ：045-633-5142 芝、児玉

セミナーと個別相談会でがんばる企業を応援します**日 時：平成19年2月15日(木) 11:30～16:30**

会 場：神奈川中小企業センター6階大研修室 ほか

参加費：無料

定 員：50名(個別相談は、各回先着10名/予約制)

主 催：財団法人神奈川中小企業センター

1、個別相談会①11:00～12:00、②14:15～15:15、③15:30～16:30(各時間とも先着10名/予約制)

2、セミナー 13:00～14:00

「**中小企業に活力を与える知的財産**」(仮称)

原田 努氏 (株)ジャステックス代表取締役社長

申 込：(財)神奈川中小企業センター・045-633-5192

ベトナムビジネス懇談会

池谷BC

日 時：1月29日(月) 19時～

場 所：神奈川県民センター

「**日本とベトナムをアセアンの発展の中に見る**」

講演 東京大学教授 古田元夫氏

ベトナム経済は目覚ましい回復軌道にある。経済成長率は年8%で、実質成長率の世界トップ20カ国入りを果たした。特に昨年APECを開催し議長国を努めWTOに加盟するまでになり、中国に代わる投資先として存在感が大きくなっている。そのベトナムの現状について解説する。 会 費：2000円

問合せ・申込：神奈川異グ連 045-633-5142 芝、池谷

第3回中小企業技術革新(SBIR)制度無料説明・相談会**日 時：平成19年1月23日(火) 13:30～16:30**

会 場：神奈川中小企業センター6階 大研修室 TEL：045-633-5192 FAX：045-633-5194

内 容：平成19年度中小企業技術革新SBIR制度の概要説明、補助金選ポイントおよび最新情報

中小企業庁 経営支援部技術課 技術支援第一係長 原 岳広氏、産学連携第二係長 須藤正智氏

申 込：(社)日本技術士会神奈川県技術士会 FAX：045-210-0338 e-mail：kcea@k06.itscom.net

技術考察**バリ取りで思う**

魚崎BC

1、はじめに

アルメニアの研修生を K 製作所と T 精機に案内した。両社に共通した仕事は段取り替えと、最後のバリ取りと検査であった。最後のお別れ講義でこのことをしゃべったがうまく伝わったであろうか。しかし、後から考えてみると、K 製作所はまだしも、T 精機は古い機械で、相当の長い間、このバリ取りが習慣になっていたようである。日本製品は細かいところまで手が届き、このバリ取りが国際競争力の源泉になっていると頭から信じていた。しかし本当にそうであろうか。両社は、バリを出さない加工法を考えているのであろうか。厚木のファインブランキングと称して、厚板を打ち抜いて歯車を作っている会社のことを思い出した。今回は、このことに関する考察である。

2、K 製作所のバリ取り

K 社は、大手企業 E 社、I 社の小型精密部品を製作している。比較的ロットも小さく多品種少量生産に相当する。小型マシニングセンターで製作された部品は、2名の女性技能者が目視で検査し、バリ取りを行っていた。K 製作所は、マシニングと NC 旋盤が主体なので、切削加工であり、切粉の形でバリが製品に残ることがある。これをヤスリでとるのである。全数検査の形である。数は少ないとはいえ、全数であるので、二人が専門について行っている。これを見ると、完全な製品を出荷することがどれだけ大変であるかわかる。ここまで、丁寧に検査することになったのには、顧客先でバリのために不良品を出したようなことが過去にあったのではないかと想像した。このバリ取りは、メーカーではどこでもやっていることだからである。

3、T 精機のバリ取り

T 社は、大手 N 精工のベアリングのリテイナーを作っている会社である。リテイナーは、薄い帯鋼からプレスで打ち抜き製作される。その金型も T 社の得意技術の一つになっている。その製品に、打ち抜いたときにバリが残るのである。また、T 社では、最近プラスチックのリテイナーも製作しているので、こちらのほうは、射出成型機の金型でリテイナーを作っている。従って、この場合は、上型と下型の境目にバリが残ることになる。帯鋼で作るリテイナーとは違う性質のバリが出るのである。T 社では、帯鋼で作ったリテイナーをバリがついたまま、中国の上海にある、T 社の出資会社に持って行って中国でバリを取り完成品にしているとのことである。プラスチックのリテイナーのほうは、国内の工場で女性が数名並んで目視検査と触手検査でバリの着いたものを不良品としてはじいていた。

4、ファインブランキングとは

十数年前、厚木の O 社を訪問したことがあった。この会社は本社がスイスであり、日本への進出企業である。ファインブランキングと称して、12mm 程度までの板を打ち抜きで製作できる機械を販売している会社である。と同時に、某自動車メーカーの歯車をこの機械で打ち抜いて製品も製作していた。製品は歯車である。歯車は通常専門の歯切り盤で加工されるが、ここでは、打ち抜きで歯車を作っているのである。従って、この方がはるかに生産性が高い。但し、精度は切削加工にはかなわないので、歯車でも、自動車のバックギアなどに使うのだそうである。ベントのバックギアはこの工作機械だというのが信じがたかった。社長は日本人であるが、この機械の生命は、打ち抜き面の精度だということで、本国は勿論、東京大学の先生とも連携して、塑性加工の研究には相当熱を入れている様子であった。

5、おわりに

ファインブランキングでは、10mm 以上の厚板をせん断加工で済ましてしまう世の中である。幾ら精密部品と言っても、1mm 程度の板厚のものを打ち抜くのにバリが出ないように出来るのではないかと思った次第である。K 社も、T 社も以上のことは知っているのかもしれない。昔からの習慣で変えられないのかもしれない。だとすると、いずれかの日には、中国とか、他の東南アジアの国で始めるかもしれない。或いは、スイスに近いアルメニアで始めるかもしれない。まさか、アルメニアの研修生が既に知っていたとすると恥ずかしいことを言ったことになる。

投稿原稿**より良い「人間社会」のために**

井上誠一・異グ連交流アドバイザー

副題：多様性に富んだ今の社会の中でコミュニケーションの多様性をどう活用して、組織力を高めるための若者のヴァリューアップを語るか？

「IT時代における人間同志のコミュニケーションの図り方」1、「コミュニケーション」という観点からみた人間の多様性

人は生まれた時代、生まれたその国、その土地の環境、家族環境などによって、それぞれ異なる育ち方をする。言葉、食習慣、生活環境などすべて異なりながら、お互いに隣人とある種の協力関係を維持しつつ、生活をしている。

人類の歴史を振り返る時、その多様さは人類の知恵と言わざるを得ない。その多様さ＝異なりには、いろいろな多様性がある。ひとつひとつ考えてみよう。

- 1) 国の違い、2) 人種の違い、3) 生まれ育った土地柄の違い、4) 少年時代に受けた教育の違い、
- 5) 生まれつきの性格の違いなど

私がシンガポール時代、ある友人が私に言いました。＝**東南アジアはサラダボールのようなものだ!**と＝サラダボールの上にいろいろな果物が載っている。マンゴもあればバナナもある。オレンジもあればドリアンもある。その一つ一つが、それぞれ独特の味があり風味がある。これが東南アジアの国々だ! と——が、この独特の味のある果物をジュースにしてしまったのが人種の垣塙 — アメリカだ! と——

社会で生きていくために、人は相手の云うことをわかろうとするし、相手にわかる言葉で話そうとする。そこには人間の持つ「同じ」を認識する能力が強く作用する。たとえば今1つのリンゴを思い浮かべる。私がイメージしているリンゴと、話し相手（コミュニケーションしている相手）が頭の中に浮かんでいるリンゴは違うものである。色も違うし、形も違うだろう。でも「リンゴ」という意味では「同じ」であって、この「同じ」を互いに了解する能力を持っているからこそ「リンゴが食べたい」といったコミュニケーションが成立する。この「同じ」と言う能力は、社会生活を営むために不可欠なものである。

ところがリンゴのような物質ではなく「資本主義」、「公平」、「正義」、「改革」といった「観念の世界」に属する言葉の場合、それらは形として見えない。にもかかわらず、それらの言葉を強引に「同じ」としてコミュニケーションを図ってしまうと、時には大きな対立を生む「混同」が生じる。「改革」をめぐる政争が起き（今 現実には起きている）「正義」を建前とした紛争が起きる。このいろいろな種類のある違いを乗り越えて、譲るべきは譲り、人間社会の安寧・平和を目指す手段は ???

この答えは人間同志の心のこもった「**コミュニケーション**」（たとえ言葉が違っても、また例え手真似ででも）ではなかろうか？

日本は四方海に囲まれ、更に徳川300年の鎖国の歴史の影響もあり、世界の中でも独特な **Harmonization**＝同族意識の強い国民性を持っている。この意識がマイナスに動く場合と、プラスに動く場合がある。一例にしか過ぎないが、マイナスに動いたのが第2次世界大戦であり、プラスに動いた例としては戦後経済の復興があげられる。

民族や環境による異なりとは別に、もうひとつ大きな作用をするものとして時代の違いと言うのがある。18世紀に初期産業革命、19-20世紀に後期産業革命を経験した人類は、21世紀に突入した今 I.T.技術の急速な発展に伴い、世の中はグローバリゼーションという呼び名で情報の速さによって、ややもすれば人間個人の違いが分からなくなっている。

人は皆、生まれてから育つ過程で自分の周りの環境から学び成長していく。つまり、年齢に応じた経験を積み重ねていくことが必要である。人は大器晩成型など、それぞれの育ち方があるが、概して10歳ぐらいまでの少年期の経験が大きく影響するという見方が多い。我々シニア世代は5-8歳の少年期には、遊び場所は田畑のあぜ道だったり、川のほとりだったりした。そこで川には丸太橋が架かっており、川に落ちると危ないぞ!と、注意して橋を渡るという体験をして、子供心にも「危険」という概念を体感して育ってきたが、最近の世相では 町は整備され田舎の橋といってもコンクリートで舗装され、「危ない!」という概念が体験しにくくなっている。川のある野山より、部屋の中でのゲーム遊びに時間が使われることが多い。

また I.T.時代の流れで、幼稚園、小学生、中学生それぞれの段階で体験しておくべきことをしないままに大人になってしまう。知識の総量ばかり気にして、成長過程の重要性を親も教師も忘れていく。少年期に体感したものは、なかなか忘れないが、ゲームとかアニメを通して知った知識としての危険という概念は、どうしても一過性になりやすい。体験してこそ痛みが分かる。

人と人とがぶつかり 意見を交わして (**コミュニケーション**) お互いが学んでいく

そこにお互いの違いを認識し、甲論乙駁の未妥協する点—? =違いのまま先送りするなど、取捨選択する一人間共存の大切な部分ではなかろうか ?

(紙面の都合で以下次号にてお送りいたします。)

- 2、シニア世代からみて今の世の中は** **3、声を出して挨拶すること** **4、実務に現れるコミュニケーション** **5、若者活性化のためのキャリア育成は?** **6、コミュニケーションは永遠の課題**

乞う、ご期待!!

新年号は多くの方にご投稿いただき、増刊号となりました。有難う御座いました。

昨年「異グ連ニュースが字数、行間が詰りすぎて見難い」との意見が出ております。今後改善をしていきますが、広範囲のニュースなので盛り沢山の中から、ご興味のある部分を選択して見て頂ければと思います。

これからもご投稿をお願いいたします。(会報編集担当)mail t-onogawa@pro.odn.ne.jp 小野川へお送りください。

かながわ異グ連事務局当番者 tel, 045-633-5142 fax, 045-633-5194 芝、八幡、島津(龍)、杉本